

令和5年12月22日

No. 10



発行責任者

校長 有崎 美紀

自ら伸びる



府中中央小学校ホームページ <http://chuosho.fuchu-town.ed.jp>

【2学期終業式 校長の話】 「わかる」と「できる」

みなさんは、「わかる」と「できる」の違いを説明できますか。私たちは大変便利な世の中に暮らしており、知りたいことがあればすぐネットで調べることができるし、欲しいものもネットで注文すれば、簡単に手にすることができます。そんな中で、私たちはともすると、「何でもできる」と勘違いをしてしまいそうになります。

「わかる」と「できる」を一つにする、つなげることはなかなか難しいものです。たとえば、算数の時間に計算の勉強をしたとしましょう。「なるほど、こう解くのだな」とわかったつもりになっていただけれど、テストをしてみると思ったほど点が取れていない、できていないと気付くことはありませんか。

陸上選手がハードルの跳び方を指導してくれて「こうやって跳べばいいのだな」と頭ではわかっていても、実際にやってみるとなかなかうまくできないことがあるでしょう。

大昔の中国に孔子というとても偉い人がいました。孔子の言葉をまとめたものが「論語」という本になっており、世界中の多くの人に読まれています。孔子は「己の欲せざる所、人に施すなかれ」と言っています。これは、自分がされていやなことは人にもしないようにしよう、という意味です。自分がされていやなことは人にしてはいけないことは頭ではわかっているけれど、ついやってしまうことがあります。ある日、孔子の弟子が「私は、この己の欲せざる所、人に施すなかれ、という言葉が好きです」と言いました。すると、孔子は「この言葉を分かっている、知っているだけではなく、本当にあなたはできるのですか」と問うたそうです。簡単なことのように見えて大人でもなかなかできないことを孔子は知っていたのでしょう。「わかる」とは、知識を自分の体に入れて理解すること。「できる」とは、理解したことを外に出すこと、つまり行動に移すこと。学ぶということは、「わかる」と「できる」をつなげること、一つにすることです。「わかっている、知っているだけで終わるのではなく、あなたはできるのですか」と孔子は私たちに問いかけているのかもしれない。

先日、はちの子祭りを企画運営してくれた児童会執行部の5・6年生が、閉会式で、何も原稿を持たずに、自分の言葉で、自分の考えや思いを堂々と述べてくれました。この学校は子供も大人もあわせて900人近い人が暮らしています。執行部のみなさんは、900人近い人たちに向けて、どんな声で話せばいいか、話すスピードはどの程度がよいか、わかっていました。誰かから借りた言葉ではなく、自分のリアルな思いをもって語ることが人の心に届くこともわかっていました。そして、それを実行できました。まさに、「わかる」と「できる」が一つになった姿でした。この姿に出会えたことが、私はとても嬉しく、まさにこの姿こそ、本校のめざす「自ら伸びる」姿だと教えられた思いでした。

明日から冬休みです。自分で決めたこと、おうちの人や学校との約束がわかっているだけではなく、きちんとできているか問い直しながら暮らしてください。3学期も「わかる」と「できる」を一つにする学びを重ねていきましょう。

【児童代表の言葉】

2年 正岡 寧

わたしが、2学期にできるようになったことと、がんばったことをお話します。

まず、2学期にできるようになったことは、時間に余裕をもって行動することです。1学期は、朝、家を出る時間や休けいが終わって教室へ帰る時間などは、いつもぎりぎりの時間で行動していました。縦割り班掃除も、ぎりぎりの時間に行っていました。他の人から、「遅刻はよくないよ。」と言われたので、2学期になってからは、チャイムがなる前に、時計を気にするようになりました。だから、外遊びをしているときは、いつも時計を見て、行動しています。そのため、時間に余裕をもって縦割り掃除にも行けるようになりました。

次に、わたしが2学期に頑張ったことは、学習発表会です。10月のクラスのはちのこの心得は、「楽しく元気に協力する」でした。この心得ができるように、群読「おまつり」では、見ているみんなにも元気で楽しい気持ちが伝わるように、大きな声を出すことを頑張りました。大きな声を出す練習は、とても疲れましたが、「みんなにも楽しい気持ちが伝えられるといいな。」と思いながら、みんなと一生懸命声を出しました。本番もしっかり声が出せたので、気持ちよかったです。また、わたしは、リズムをとることが好きです。だから、おまつりのリズム打ちは、とても張り切って、「ウン」の動きを、大きく見せるようにしました。リズム打ちもみんなと合ったので、「やった。できた!」と、とても嬉しかったです。家族から「がんばったね。」ほめられて、みんなと頑張って練習をしてよかったと思いました。

3学期も、できるようになったこと、がんばったことの経験を生かして、2年生のみんなと力を合わせて、3年生に向かって頑張っていきます。

はちの子図書まつり

11月20日(月)から24日(金)までの4日間、「はちのこ 図書まつり」がありました。本や図書館のことをもっと知り、本を読む意欲につなげること、いろいろな本の紹介を見たり、問題にチャレンジしたりして読書の幅を広げることをねらいとして、図書委員会の子供達を中心となって行いました。期間中は、5・6年生のポップの掲示、はちの子読書検定、はちの子ラリーが行われ、たくさんの児童が参加しました。

府中町では、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、今年4月に「府中町子ども読書活動推進計画(第三次)」が策定されました。この計画では、「本を通じて『志』を育む」ことを目標とし、「本に親しむ」「本から学び自らの考えを深める」「目的に応じて読む」の3点が基本方針として示されています。今回の「はちの子 図書まつり」も学校における読書活動推進のための取組の一つです。その他にも、朝の読書タイムでの全校一斉読書、読み聞かせボランティア Sweet さんによる読み聞かせ、授業の中で自らの課題解決をするための読書活動などを行っています。これらの活動を通して、「読書習慣を形成する」「子供達が自ら本を手に取り、多様なものの見方や考え方に触れ、自分の考えを形成し表現できるようにする」「興味・関心があることや学習に関する本を選択できるようにする」ことができるようにしていきます。ご家庭でも、子供さんと一緒に町立図書館に行ったり、一緒に読書をする時間を設けたりするなど、読書に親しむ機会を設けていただけたらと思います。



「はちの子読書検定」 ～多くの子供が参加しました～



6年生がポップで
おすすめの本を紹介

はちの子祭り

12月8日（金）に子供達がとても楽しみにしていた「はちの子祭り」が開かれました。学年で遊びを一つ決めてお店を開きます。この日に向けて、各学年・学級で話し合い、アイデアを出し合い、役割を決めて協力しながら準備を進めてきました。身近な廃材等を利用し、必要な物を手作りで用意したり、国語科や生活科・理科・総合的な学習の時間等で学習したことを内容に生かしたりするなど、子供達にとって充実した楽しい「はちの子祭り」でした。各学級で3グループに分かれ交代しながら自分の学級の遊びの説明や進行をしたり、他の学年へ遊びに行ったりしました。学校の中がはちの子たちの笑顔であふれた時間となりました。

はちの子祭りの終わりに閉会式を meet で行いました。閉会式では、はちの子祭りを運営した児童会執行部の5・6年生が、原稿も持たず、自分の言葉で自分の思いや考えを堂々と述べました。まさに本校の育てたい「自ら伸びる」児童の姿でした。このような児童会執行部の5・6年生の姿を目標として、下学年の児童が「自ら伸びる」ことができるよう、これからもさまざまな教育活動を行っていききたいと思います。



CS ミュージックフェア

12月15日（金）の昼休憩に、CS サポーターさんが「CS ミュージックフェア」を開催してくださいました。「学習発表会で頑張る児童の姿に刺激を受けて、自分たちもやってみたくなりました」というサポーターさん。2ヶ月近く練習の末、ついに本番を迎えられました。本番前、「子供達、集まってくれますかね？」と心配されていましたが、昼休憩になるとたくさんの児童が多目的ホールに集まってきました。「ジングルベル」など3曲のクリスマスソングを披露してくださいました。歌やハンドベルの演奏、合奏があり、6年生の児童3名もサポーターさんの横で演奏に合わせて踊り場を盛り上げてくれました。集まった子供達もサポーターさんお手製の楽器を手に取って一緒に演奏したり、歌ったり、踊ったりして大盛り上がりでした。

ミュージックフェアが終わると、子供達から「楽しかったね。」「またやってもらいたい。」という声があちらこちらで聞かれました。サポーターさんのおかげで、子供達も教員も楽しいひとときを過ごすことができました。



6年生も盛り上げてくれました

サポーターさん、楽しい時間をありがとうございました

アンケートへのご協力ありがとうございました

保護者の皆様には、ご多用の中、第2回「いじめ、体罰、セクシャルハラスメントアンケート」にご協力をいただき、ありがとうございました。アンケート結果をもとに学級担任が事実関係を確認し、話し合いや学級指導をしました。今回のアンケート結果からは、「相手の気持ちを考えていない言動が多い」「暴力や殴る真似をするなどの行為もある。また、言葉による暴力も多い」「自分の感情を言葉で伝えることなく行動にうつしてしまう」などの傾向が見られました。軽い気持ちや相手のことをよく考えていない言動や自分の感情のままに行動することが、相手を傷つけてしまう場合があることを理解させ、相手の気持ちを考え思いやりのある言動をとること、自分の思いを言葉できちんと伝えることの大切さを繰り返し指導していきます。また、中学年以上では、SNSでのやり取りに起因する友達関係に悩んでいる児童もいました。学校では、友達との関わり方とともにSNSとの付き合い方についても指導しています。これからも、全教職員で共通認識を図り、今後も保護者の皆さんと連携を密にしながら、心を育てる取組を進めていきたいと思っています。ご家庭でも折にふれてお子さんと話し合ってみてください。ご協力をよろしくお願いします。

「じまんの俳句」第6回目の代表作品

パッカンと 秋の宝石 くり参上

五年 今西 果穂

なんと言ってもこの作品は「パッカン」という音が心に響きます。目の前の栗はきつとイガが「パッカン」と割れて、その割れ目からつやつやしたまるで宝石のような栗がのぞいていたのではありませんか。あたかもどこからか現れたかのような「くり参上」という言葉で締めくくっているのも見事です。

秋の葉は ペンで色を かえたかも

三年 神田 脩志

この作品の魅力は、なんと言っても「ペンで色を変えたかも」という表現です。まるでカラーペンを色鮮やかに塗り替えたようだと言った作品は初めてです。秋になると一斉に葉の色を変えていくさまを、詠み手独自の見方で観察し、言葉を選んでいるのがいいです。

手まきずし だいすきなイクラ あふれたよ

一年 関上 葵

手巻き寿司パーティーでもあったのでしょうか。「イクラがあふれた」という表現から、キラキラしたイクラが海苔からはみ出さんばかりにたっぷり入った手巻き寿司が目に見えるようです。大好きなイクラの手巻き寿司を目の前にして、こぼれそうな笑顔になっている詠み手の顔まで浮かんできます。

【お知らせ】

○12月29日（金）から1月3日（水）までは、町内の役場・学校は一斉に閉庁となりますので、学校に立ち入ることはできません。

○冬季休業中に学校へのご連絡が必要な場合は、年内は12月28日（木）まで、年明けは1月4日（木）からお願いします。

今年も様々な面で学校を支えていただき、ありがとうございました。
健康に留意され、皆様、よいお年をお迎えください。

